

調査の概要

1 調査の趣旨

平成22年度中に策定する千葉県男女共同参画計画（第3次）の基礎資料を得るため、県民対象の意識調査を実施し、本県の男女共同参画の意識の変化や、実態を把握するとともに、課題の解析等を行う。

2 調査内容

- (1) 男女共同参画に関する意識等
- (2) 家庭生活
- (3) 教育
- (4) 人権
- (5) 働き方
- (6) 仕事と家庭生活の両立
- (7) 少子・高齢化
- (8) 社会活動などへの参画
- (9) 属性

3 調査設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,500人
- (4) 標本抽出法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送により調査票・返信用封筒を配付し、郵送により回収
- (6) 調査期間 平成21年10月16日～11月2日
- (7) 調査実施機関 株式会社ちばぎん総合研究所

4 回収結果

回収率	1,136(45.4%)
女性	640
男性	490
無回答	6

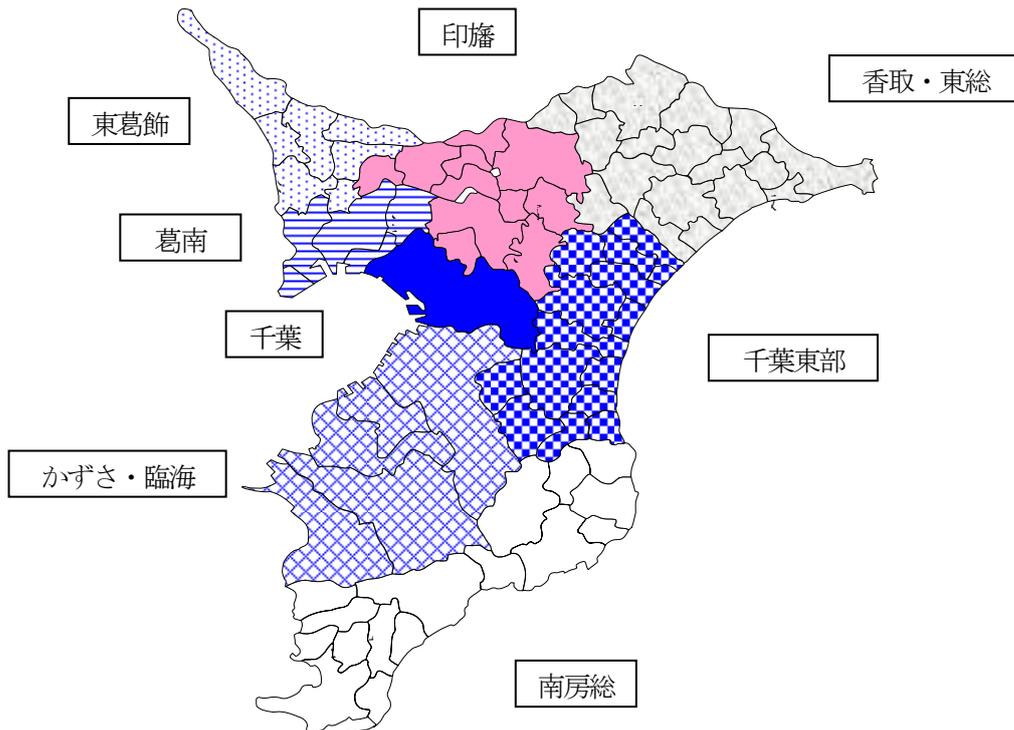
5 標本抽出法

調査対象	千葉県在住の満20歳以上の男女	
標本数	2,500	
地点数	市部	193
	郡部	7
	計	200
抽出法	層化二段無作為抽出法	

【層化】

1 県内を次の7地域に分類した。

地域名	該当市町村名
(1) 千葉	千葉市
(2) 東葛飾	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
(3) 葛南	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
(4) 印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町
(5) 香取・東総	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、多古町
(6) 千葉東部	茂原市、東金市、勝浦市、いすみ市、山武市、大網白里町、横芝光町
(7) かずさ・臨海	木更津市、市原市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
(8) 南房総	館山市、鴨川市、南房総市



2 各地域内においては、さらに市部、郡部に分け、層とした。

【標本数の配分】

各地域、市郡規模別の層における満20歳以上の人口（平成17年10月1日現在の国勢調査）に対して2,500の標本数を比例配分した。

【抽出】

平成17年国勢調査時に設定された調査区の基本単位区を、第一抽出単位として使用した。

1 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上割当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における20歳以上国勢調査人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right]$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

- 2 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成17年国勢調査時の「市町村コード表」に従った。
- 3 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

以上の結果、各地域・市郡規模別(層別)の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域名	市部	郡部	計
(1) 千葉	11,570 360(27)	-	11,570 360(27)
(2) 東葛飾	18,984 604(48)	-	18,984 604(48)
(3) 葛南	19,533 609(49)	-	19,533 609(49)
(4) 印旛	7,310 243(20)	925 29(3)	8,235 272(23)
(5) 香取・東総	3,198 106(9)	201 12(1)	3,399 118(10)
(6) 千葉東部	2,721 97(7)	1,072 37(3)	3,793 134(10)
(7) かずさ・臨海	10,649 332(26)	-	10,649 332(26)
(8) 南房総	1,894 71(7)	-	1,894 71(7)
合計	75,859 2,422(193)	2,198 78(7)	78,057 2,500(200)

上段：基本単位区数

下段：標本数（調査地点数）

6 報告書の見方

本報告書を読む際の留意点

- (1) 結果はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分率の合計が100%にならないことや、個々の比率の合計とその小計の数値が一致しないことがある。
- (2) 数値やグラフ中の()内の数値は回答者総数(又は、分類別の該当者数)を示し、回答比率は、これを100%として算出した。
- (3) 標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差率} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N=母集団数 (=5,119,263人、基準日平成21年4月1日現在の20歳以上人口)

n=有効回答数 (1,136件)

P=回答の比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

	回答の比率				
	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
1136	± 2.5 %	± 3.4 %	± 3.8 %	± 4.1 %	± 4.2 %
500	± 3.8 %	± 5.1 %	± 5.8 %	± 6.2 %	± 6.3 %
200	± 6.0 %	± 8.0 %	± 9.2 %	± 9.8 %	± 10.0 %
100	± 8.5 %	± 11.3 %	± 13.0 %	± 13.9 %	± 14.1 %

- (4) 1人の対象者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分率(%)の合計は、100%を超える場合がある。
- (5) 分析の軸(縦軸)としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもある。
- (6) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- (7) 本調査は、平成16年度に行った「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」に続くものである。
- (8) 国で実施した調査との比較については、国は個別面接調査で実施しているため、「無回答」がないことから、正確な比較は行えないため、参考とする。